

奈良県放課後児童対策推進委員会 概要

- 日 時：令和元年8月27日（火）9：30～11：30
- 場 所：奈良県文化会館 第1会議室
- 議 題：放課後子ども教室の現状について
放課後児童クラブの現状と課題について
- 出席者：岡田龍樹委員長、川原元子委員、西川美由紀委員、畑香委員、
細田七海委員、松本哲志委員、吉岡秀樹委員（五十音順）
- 傍聴人数：なし
- 議事概要：

<開会挨拶>・・・橋本こども・女性局長より挨拶

<議事>

<定足数報告>・・・委員7名出席（1名欠席）

<新委員紹介>・・・事務局より別添委員名簿に基づき、新委員を紹介

<事務局より資料説明>

・・・資料1（人権地域教育課）、資料2（子育て支援課）

事務局への質問及び主な意見については以下のとおり

<事務局への質問>

【岡田委員長】

小学校内実施率について一体型、連携型は小学校内で放課後児童クラブを実施しているということか。奈良市では学校の外で実施しているものもあるが。

【川原委員】

奈良市の小学校で放課後児童クラブを実施しているところはすべて校内で実施しており、民間の4つが校外で実施している。

【畑委員】

「放課後児童支援員認定資格者研修」について、今年度で5年目をむかえ、国の基準における経過措置が終了する。一定数の取得者が確保できているとのことだが、資格を取得しても辞めるものもおり、新しく雇われた人で受講要件を満たしておらず資格を取得していないものもいる。来年度以降の計画は県ではどう考えているか。

【県】

人の入れ替わりもあり、今後も引き続き実施していく予定である。

【岡田委員長】

放課後子ども教室の課題は何かあるか。

【県】

人材がボランティアベースであるため、なかなか集まらず、人材が高齢化しており次のなり手がみつからないことが課題である。

【細田委員】

3 ページにある地域の活動について、情報が十分に行き渡っていない家庭もあるのではないかと。情報が十分に行き渡るよう配慮が必要。

<その他意見交換>

【岡田委員長】

放課後児童クラブでは、学校教室の確保や支援員の確保、質の確保が課題になっているが、現場での取組等について何かご意見があればお願いします。

【畑委員】

待機が発生していない市町村の中には、定員を超えて受け入れているところもあると聞いています。入所希望児童数は増えており、クラブ入所需要は高まっている。学校によっては児童数が増えているところもあり、空き教室を探すのが難しい現状もある。敷地内外とも建物をたてる場所もない、一方で同じ市内でも児童数が少ないところもあり、地域偏在がある。

【岡田委員長】

支援単位に定員を設けていないところがあるのか。

【県】

定員はすべて設けているが、定員を超えても基準上の面積を満たすまでは受け入れているところがあるということだと思われる。

【吉岡委員】

川西町も現在待機児童が発生している。平成 24 年建設当初は定員 50 名であったものが、ニーズは増えてきたため、定員を面積基準上の限度である 86 名まで増やして対応しているが、さらに入所希望児童がおり、待機が発生している。

学校の空き教室活用にあたり、町長や教育長まで相談し、余裕教室の確保には至ったが、支援員の確保ができず苦慮している状況。

【松本委員】

本校でも児童数は減ってきているが、放課後児童クラブの児童数は増えてきている。特別支援学級の児童も10年前は約10名であったが、今では約30名に増えており、その多くが放課後児童クラブに入所している。放課後児童クラブの指導員も様々な児童の対応に苦労されている。

【細田委員】

大規模クラブを分割することで支援が必要な児童も落ち着く。支援員の募集をしても高齢者しか集まらない。集まらない理由の一つに勤務時間帯が特殊という事情もある。また、専門性の高い仕事だということの社会的認知も低い。夏休みは朝から晩までであるが、普段は13:00頃から夕方までで、パートの時給であるにもかかわらず高い専門性を求められ辞めてしまう。専門職であるという社会的な認知が高まれば、処遇も良くなり、待遇改善されるのではないか。

【畑委員】

時給の割にはしんどい仕事である。研修や福利厚生も含め、正規職員としての待遇が必要な仕事である。大学を卒業してからの選択肢の一つとして認められる職業にならないと厳しい。

【吉岡委員】

指定管理や運営委託など、雇用形態が市町村により様々であるため、行政が一律に変えていくのは難しい。

【川原委員】

夏休みは児童数も増え、弁当の提供も行っているにもかかわらず、支援員の数は変わらないため、現場の負担は大きいと思われる。

【岡田委員長】

大阪市は放課後子ども教室が298日あり、充実している。500円で全児童が放課後もみてもらえる。ただ子供はずっと学校で過ごしており、果たしてそれがいいのか、安全のため学校内で見守るということだが。

【西川委員】

小中学校での人との関わり方が充実しているとコミュニケーション能力等、高校生になっても違う。支援の必要な児童は増えてきており、支援員のスキルアップは非常に重要であるため、研修の充実などお願いしたい。

【吉岡委員】

支援の必要な児童へは、障害に関する制度の活用も案内している。支援員のスキルアップや処遇改善も必要だが、喫緊の課題として人材不足を解消する必要がある。

【畑委員】

作業療法士が勤務している放課後等デイサービスなども増えてきており、他職種との連携も有効。

【岡田委員長】

行政としては研修の機会を作っていくことが大事であり、一つの方法として特別支援の科目を持つ教員養成大学に講座を開いてもらえるよう声をかけてみてはどうか。大学にも地域貢献という名目もある。

放課後児童クラブと放課後子ども教室の一体的実施について両事業とも子ども放課後の居場所という思いは一緒。

【細田委員】

市町村の中でも子ども教室と放課後児童クラブの担当課が異なるため、学校施設利用に温度差がある。もっと連携が必要。

【岡田委員長】

「学校施設を活用した放課後児童クラブの整備に係る協定書」にあるように、市と教育委員会で締結するというようなことは現実としてあるのか。

【吉岡委員】

放課後児童クラブが学校施設を使うには学校の先生が放課後児童クラブの児童にどう関わるのかなど、一定のルールは必要。

【細田委員】

ルールは決めても現実には現場での対応に任されるところも大きい。